

中心市街地循環バスの再構築に関する研究

信州大学工学部 学生会員 丸山 彩香
信州大学工学部 正会員 高瀬 達夫
松本市建設部都市交通課 高野 敬吾

1. はじめに

近年、地域のニーズに応じ、コミュニティバスや乗り合いタクシーなど地域公共交通において多様な形態の運送サービスの導入が全国的に多くみられている。長野県松本市でも、平成11年に松本城の保護と松本市の不況対策を目的に市街地循環方式のコミュニティバスの運行が開始され、現在では松本周遊バスとして4路線が運行し市民や観光客の足として利用されている。同時に、全国各地では観光客を呼び込むためにさまざまな施策がとられており、市内観光を目的とした周遊バスがその一例として挙げられる。そこで、長野県の主要観光地の一つである松本市においても観光に特化した周遊バス運行の必要性があるのではないかと考えた。

本研究では、まず松本周遊バスにおいて乗り込み調査を行い、バスの利用実態を把握した。さらに松本市へ訪れる観光客を対象とした観光行動調査を実施し、観光客の交通の利用実態及び市内回遊状況の分析を行った。これらの結果をもとに、中心市街地循環バスを観光用として再定義し路線およびサービスの再構築のための基礎的分析を行う。

2. 中心市街地循環バスの利用実態

本研究では、松本周遊バスに乗り込み、乗客を対象としたヒアリングによる利用実態調査を実施した。調査実施日は、観光客に偏りが出ないよう観光客が少ないと思われる平日を選択した。調査項目は表-1に示したように個人属性や乗車目的とし、目的が観光であった場合のみ追加項目として今後の予定や周遊バスの認知について尋ねた。その利用実態結果より、図-1に示したように観光客の利用が高いことが判明した。

一方、この市街地循環バスは継続的に運行ルートの改善を図っているが、平成19年度以降は利用客の減少が見られている。今回の調査結果より一般市民

の利用が少ないことを考慮したうえで、このバスを観光用として再定義し、観光客のニーズに対応した路線やサービスの再構築を行う必要があると考えた。

3. 松本市中心市街地来訪者の観光行動調査

3.1 調査概要

平成26年度における各観光施設の入館者数または観覧者数¹⁾より、最も来場者数の多い松本城公園において、来場者を対象にヒアリングによるアクティビティダイアリー形式の観光行動調査を行った。さらに調査結果より、松本市へ来訪する際に利用する交通（域外交通）と中心市街地を回遊する際に利用する交通（域内交通）の実態を把握し、観光施設の魅力度、及び移動手段、滞在時間が周遊行動に与える影響を分析した。なお、調査時期や回答者数は表-2に示したが、調査実施時期については、大きな催しがなく観光客の多い週末を選択した。本調査においては1日の行動が決められているツアー客、もしくは主な行動が観光目的ではない対象者を除いたものを有効回答数とした。

表-1 ヒアリング調査項目

項目	個人属性	利用実態	観光目的のみ
設問	・年齢 ・性別 ・居住地	・乗車目的 ・乗降停留所	・今後の予定 ・周遊バスの認知

■ 観光客 ■ 一般客

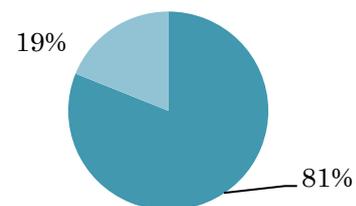


図-1 松本周遊バスの利用者

表-2 聞き込み調査集計結果

実施時期	平成 26 年 10 月 17 日(土) 午前 10 時～午後 3 時	
回答数	152	組
有効回答数	137	組

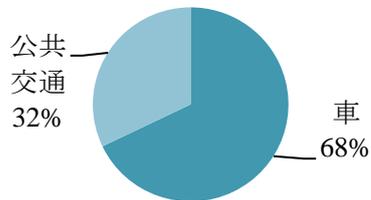


図-2 域外交通手段

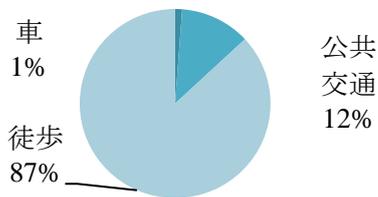


図-3 域内交通手段

3.2 調査分析結果

観光客が松本市街地へ訪れる際に利用した交通手段を図-2 に示した。中心市街地における観光客の移動交通手段として、自家用車、公共交通、徒歩という回答が挙げられた。また、図-3 に示したように市街地の移動手段は徒歩が多く、たとえマイカーで訪れたとしても徒歩で市内中心部を回遊していることがわかった。加えて、表-3 に示したようにほとんどの観光客が松本市へ到着後、はじめに松本城を観光し市内を回遊するパターンが多いことがわかった。

4. 中心市街地循環バス再構築のための観光客の潜在的需要

再構築を行うにあたっては、まず観光客の潜在的需要を把握しなければならない。そのために観光行動調査から得られたデータより、中心市街地における滞在時間、滞在客数を算出した。さらに、宿泊客、日帰り客に分類しそれぞれ時系列による特性を把握した。図-4 に示すように前泊は午前中から中心市街地に滞在しているが、日帰り・後泊は似たような滞在傾向であった。全体では 13 時にピークをむかえ、15 時頃から中心市街地を離れることがわかった。

表-3 域外交通別の市内回遊の有無

	松本市までの移動手段	
	自家用車	公共交通
松本城のみ	7%	3%
来城前に市内回遊	5%	4%
来城後に市内回遊	22%	16%
未定	48%	

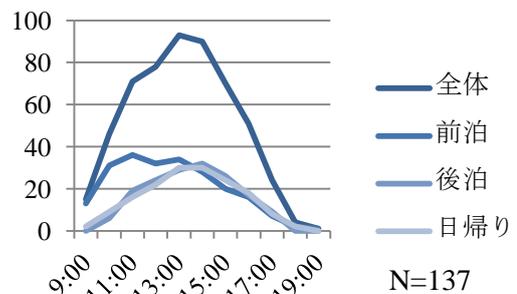


図-4 時間帯別の中心市街地における滞在客数

また表-3 で得られた結果より、松本城を訪れた後の予定が未確定である観光客が半数にも及ぶことが明らかとなった。そのため、他観光名所がある旨を認知しやすいようにバスの行先やネーミング等によるわかりやすい情報発信の工夫が必要である。さらに、市内回遊の移動手段を徒歩から公共交通機関へ転換を促し、移動時間短縮による効果や他観光施設への立ち寄り、新たな魅力の発見につながると考える。

5. おわりに

本研究では、中心市街地循環バスの再構築を目的として乗り込み調査及び観光行動調査を行い、分析を行った。分析結果より、限られた滞在時間の中で効率よく市内を回遊するには、駐車場とバス停留所並びに主要観光施設間のアクセス性、松本城から市内への回遊性、わかりやすい情報発信が鍵となる。

今後はこれらの分析結果を用いて最適な路線の提案やサービスの構築をおこなう。

参考文献

- 1) 平成 26 年度松本城観覧者数および中心市街地における各観光施設入館者数, 松本市, 2015